



岸本周平
Kishimoto Syuhei
中央大学客員教授

<http://www.shuhei-k.jp>

ミニ集会の向こうには


ドブ板選挙活動の基本は、何と言っても戸別訪問とミニ集会です。特に、ミニ集会は1回当り5、6人から10人程度の有権者の皆さんと膝詰めでじっくりとお話をするまたとない機会です。戸別訪問ではお留守のご家庭もありますし、1対1という親密な時間を持つ一方で、一日に会える人数に限られます。ミニ集会は、戸別訪問に比べれば効率よく人に会えます。街頭演説や大きな集会に比べると、こちらの意見を一方的にお話しするだけな

ワイとやる場合が多いです。お勤め帰りのサラリーマンの皆さんとは、夕方、公民館で車座で議論というかたちになります。いろいろな質問や政治への批判などもいただくので、答え切れない場合もありますが、そこは肩肘張らずに、わからないことはわからないとはっきりお答えし、等身大の自分を見てもらおうと割り切っています。

ミニ集会をしていて、何よりためになるのは、有権者の

皆さんの問題意識や関心の所在が直接伝わってくることです。電が関にいた時には想像もつかなかったことがたくさんあります。やはり、サラリーマンの方々は年金問題に関心が集まります。主婦層は圧倒的に教育問題に一家言ありです。少子高齢化に伴って、日本の経済がどうなっていくのか、皆さん漠然とした不安感を持っておられます。

ある時、平均年齢78歳のおばあちゃんたちのミニ集会がありました。人数も多く、20人近くお集まりいただきました。これから実施される高齢者の医療負担の引き上げについて、病院での窓口負担増や、長期入院の食費や居住費が自己負担になることを説明したところ、大ブーイングがあるかと思いきや……。「自分たちが娘のころは、ちょっとした病気で病院

なんか行けなかった。健康保険のおかげで、ほんとうに有り難い。2割や3割負担するのは当然！」との反応でした。これには驚きました。「それでは、何に腹が立つんですか？」と聞いたところ、皆さんおっしゃるのは、生活保護の不正受給です。「いい若い者が、五体満足なのに、昼間からブラブラして生活保護で暮らしているのは許せない。民生委員も近所の人から恨みを買いたくないので、審査が甘いのだよ」と憤懣やるかたない様子。「私たち、今でこそ、年金で生活しているけれど、若いころから一生懸命働いてきたのよ」と言う彼女たちの誇りが強く感じられました。毎日がほんとうに勉強の連続です。 



く、有権者の皆さんのご意見やお気持ちをお聞きすることができます。10人程度で1時間半ばかりおしゃべりをしてしまうと、お名前とお顔を覚えるくらい親しくなれますので、充実感のある活動のひとつです。そのようなミニ集会に参加して下さった有権者の方が、「今度は私が人を集めます」と次のミニ集会につながっていくのが理想です。まだまだ駆け出しの私のところでは、そうはうまく展開していきませんが……。

会場は主に、個人のご自宅とかコミュニティーセンターや公民館です。主婦の方々ですと、私の同級生のお家で、昼間、お茶とケーキなんかをいただきながら、ワイ